

女性の笑顔と責任—誰が責任をとるのか（2006年6月）

きょう、社会保険庁職員の休日ビラまきが公務員の政治活動規制に引っ掛けての東京地裁で、執行猶予付き罰金刑の判決があった。休日のビラまきがなぜ？ そして、昨日の都立板橋高校における君が代歌唱時の不起立も有罪となった。日本は繰り返し流される北朝鮮映像を笑っている場合なのか。おそろしい時代がやってきているのである。これに声をあげないで、サッカーにうつつを抜かしているメディアや国民は、戦時下の権力者や国民を責めることはできない。いや、いまは責めるどころか、懸命に当時の指導者たちを救済しようとする論調が幅をきかせ始めたことである。それでは、いったい誰が責任をとるのか。みんな、成り行きで仕方ないことだったのか。

そして、最近、現代の行政・政府・メディアの無責任さを露呈する一件があった。少し遅れて開封した、政府広報誌「時の動き」6月号のシリーズ「かがやく女性」欄の名前であり、笑顔だった。早稲田大学に辞表を出したといい、助成金不正流用、論文捏造も取り沙汰される、松本和子教授である。「発覚」直前の取材であったのか。「かがやく」の文字がむなし。国際的な学会の副会長に就任し、次期会長というのがメインテーマで、華麗な学歴と学会賞受賞の数々、いくつかの政府委員の要職にもついているというプロフィールが紹介されている。さらにネットで調べると、「大学評価・学位授与機構」の「第1次連携会員（487人）平成18年6月1日現在」の一人というし、「独立行政法人評価委員会高等教育分科会」の臨時委員でもあるというのには苦笑してしまった。一私学の問題ではなさそうである。

ついこの間も、似たような体験があった。私が退職後在籍していた大学から、会費未納のままでも校友会の新聞が届く。そのインタビュー欄にも「時の女性」が母校を語って笑顔を見せていた。女子スケート連盟の強化部長城田憲子であった。不祥事が明るみになったときはすでに印刷済みだったのだろうか。スポーツ界のスキャンダルも、楽しむスポーツとは程遠い、暴力やお金が絡む「勝敗」とのかかわりの方が重く、「日の丸・君が代」「愛国心」と決して無関係ではない。